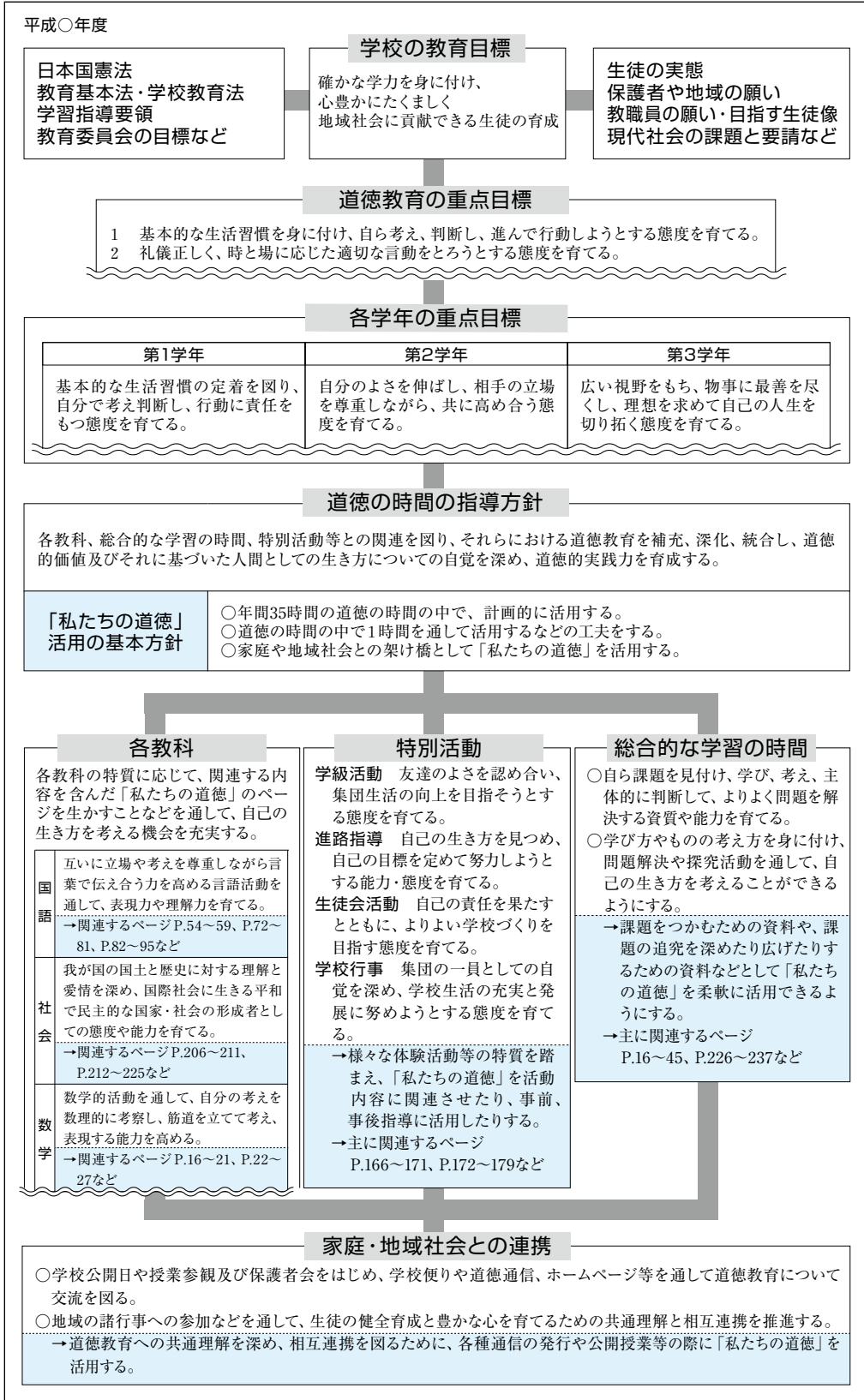




3 「私たちの道徳」の活用について示した道徳教育の全体計画の例

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

3 「私たちの道徳」の活用を促す「道徳教育の全体計画」

1 「私たちの道徳」を位置付けた道徳教育の全体計画

「私たちの道徳」の活用にあたっては、道徳教育の全体計画に「私たちの道徳」を位置付けるなどして、活用方針や活用方法などについて、学校内で共通理解を図って活用することが望まれる。

全体計画への「私たちの道徳」の位置付けについては、学校の全教育活動を通じた「私たちの道徳」の活用方針、また、道徳の時間や各教科等のそれぞれの教育活動における「私たちの道徳」の活用方針、さらには、学校と家庭や地域との連携による「私たちの道徳」の活用方法などを示すことが考えられる。

また、「私たちの道徳」をより効果的に活用していくために、活用状況等を振り返って、全体計画を見直し、工夫・改善を図っていくことが望まれる。

さらに、各教科等の指導計画などにも必要に応じて「私たちの道徳」の活用を盛り込み、全教育活動を通じて「私たちの道徳」の効果的な活用を図っていくことも期待される。

2 道徳教育の全体計画に「私たちの道徳」を位置付ける際の配慮事項

○校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心に、学校内で共通理解を図って、全体計画に「私たちの道徳」を位置付けるようにする。

○学校の教育目標、道徳教育及び各学年の重点目標の下、学校の特色や実態、課題等に即して、「私たちの道徳」の効果的な活用の仕方などを考える。
○学校と家庭や地域との連携、また、小・中学校の連携などによる効果的な活用方法を考える。
○組織的で一貫性のある道徳教育を効果的に推進するため、「私たちの道徳」の活用状況等を振り返って、全体計画の評価と工夫・改善を図る。

●「私たちの道徳」の活用に関する全体計画の評価の視点〔例〕

- ① 共通理解の下に、学校の教育活動全体を通じて効果的な活用が図られたか。
- ② 道徳の時間において、効果的な活用が図られたか。
- ③ 各教科等において、児童生徒の道徳性を養う視点から効果的に活用することができたか。
- ④ 生徒指導や体験活動などに効果的に生かすことができたか。
- ⑤ 家庭や地域との連携を深める視点から有効な活用が図られたか。

(第1学年)

道徳の時間	各教科等	数 学	総合的な学習の時間	特別活動		
				学級活動	生徒会活動	学校行事
4月	学習内容 関連する道徳の内容項目 「私たちの道徳」	「正の数・負の数」 正、負の加法・減法の仕組みを理解する。	「郷土まち探検」 自分たちが住む郷土について調べる探究的な学習を行う。	「1年生になって」 目標の設定、学級組織づくりをして、中学校生活の充実を図る。	「生徒会オリエンテーション」 生徒会の計画や運営について理解する。	始業式、入学式、身体測定、健康診断
		1－(4) 真理を愛する	4－(8) 郷土の発展に尽くした先人への尊敬と感謝の念	1－(2) 目標に向かう強い意志 4－(7) 学級・学校の一員としての自覚	4－(7) 学級・学校の一員としての自覚	1－(1) 基本的な生活習慣 1－(2) 目標に向かう強い意志
		P.32～37	P.200～205	P.16～21、 P.194～199	P.194～199	P.10～15、 P.16～21

5 「私たちの道徳」の活用について示した道徳教育の全体計画の別葉の例

(1) 道徳の時間と各教科等における道徳教育に関わる内容及び時期を示した例

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

(第3学年)

教科等	国語	社会	保健体育	総合的な学習の時間	特別活動	道徳の時間	
						資料	「私たちの道徳」 (活用ページ)
一 自分自身に関すること	(1) 望ましい生活習慣、健康、節度		運動、食生活、休養と睡眠、生活習慣病と健康 (5月)		学級開き・組織づくり (4・10月)、生徒総会議案審議 (5・1月)	すてる思考の整理学 (5月)	導入P.10 終末P.13
	(2) 希望、勇気、強い意志	故郷 (9月)	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 (6月)	総合発表会 (12月)	目標づくり (4・10月)、二学期に向けて (7月)	メッセージ〈松井秀喜〉 (4月)	導入P.16 終末P.17
	(3) 自主・自律、誠実、責任		自由権、社会権、社会の変化と「新しい人権」 (9月)			ネット将棋 (9月)	導入P.22～23 終末P.26
	(4) 真理愛、理想の実現	田中正造 (4月)				『忘れ残りの記』より (7月)	導入P.32 終末P.35
	(5) 向上心、個性の伸長、充実した生き方		器械運動 (10月)	生き方を考える (10～12月)	学校祭 (9月)	メッセージ〈山中伸弥〉 (10月)	導入P.38～40 終末P.41
二 他の人との関わり	(1) 礼儀	敬語 (5月)	集団行動 (4月)			Vサイン (4月)	導入P.48～49 終末P.53
	(2) 人間愛、思いやり		世界の平和のために (12月)、よりよい地球社会のために (1月)			賢者の贈り物 (12月)	導入P.54～55 終末P.56
	(3) 信頼、友情		ダンス (11月)			嵐の後に (11月)	導入P.60～61 終末P.62

4 「私たちの道徳」を位置付けた道徳教育の全体計画の別葉

(1) 道徳教育の意図的、計画的な展開

平成二十年の学習指導要領の改訂において、道徳教育の全体計画に各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を示すことが新たに求められた。一覧表としての全体計画に必要な各事項について文章化したり、具体化したりした別葉を加えることで、教育活動全体を通じて行われる道徳教育を意図的、計画的に展開することが容易となり、全体計画が具体的な教育実践に生きて働くものとなる。

学習指導要領解説道徳編では、別葉として、次の例が示されている。

- ① 各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を整理したもの
- ② 道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期等が一览できるもの
- ③ 道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるもの

各学校においては、道徳教育推進教師を中心とした協力体制と共通理解の下、創意工夫を生かした様々な別葉が作成されることが期待される。その際、「私たちの道徳」の活用についても別葉に適切に盛り込むことが重要である。

(2) 別葉を作成することで期待される効果

道徳教育の全体計画に、「私たちの道徳」の活用を盛り込んだ別葉を加えることで様々な効果が期待できる。

例えば、道徳教育の全体計画には、学校や地域の実態に応じた重点目標が示されている。その重点目標や各学年の重点項目と学校の教育活動がどのように関連し、展開されていくのか、その際、「私たちの道徳」をどのように活用するのかなどを別葉において示すことで、目標を明確に意識して、一貫した指導方針の下、「私たちの道徳」を効果的に活用しながら、より重点的、具体的な指導を行うことができる。

また、各教科等における学習と道徳の内容との関連を考える際に、「私たちの道徳」の内容を参考にすることができる。「私たちの道徳」の活用を考慮しながら、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容を別葉に示すことで、全教育活動を通じた意図的、計画的な道徳教育の指導をより具体的に構想し、実践に生かすことができる。

さらには、家庭や地域と連携して行う道徳教育の活動や、家庭や地域との連携による「私たちの道徳」の活用の方法等を示した別葉を作成することで、家庭や地域との共通理解を図りつつ、より具体的な活動によって連携を深め、児童生徒の豊かな心を育んでいくことができる。

(3) 各教科等における「私たちの道徳」の活用計画の例

ページ	タイトル（読み物資料活用学年）	内容項目	教科等との関連										
			国	社	数	理	音	美	体	技	外	特	総
4	この本の使い方												
5～7	今の私												
8～9	自分を見つめ伸ばして											○	○
10～15	調和のある生活を送る	1－（1）				○	○		○	○		○	○
16～21	目標を目指しやり抜く強い意志を	1－（2）	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
22～27	自分で考え実行し責任をもつ	1－（3）										○	○
28～31	読み物資料「ネット将棋」（2年）	1－（3）							○	○		○	
32～37	真理・真実・理想を求め人生を切り拓く	1－（4）			○	○						○	○
38～43	自分を見つめ個性を伸ばす	1－（5）						○				○	○
44～45	自分を深く見つめて											○	○
46～47	人と支え合って								○			○	○
48～53	礼儀の意味を理解し適切な言動を	2－（1）	○								○	○	○
54～59	温かい人間愛の精神と思いやりの心を	2－（2）	○					○				○	○
60～65	励まし合い高め合える生涯の友を	2－（3）										○	○
66～71	異性を理解し尊重して	2－（4）		○					○	○		○	○
72～77	認め合い学び合う心を	2－（5）	○		○								
78～81	読み物資料「言葉の向こうに」（3年）	2－（5）	○							○		○	○
82～87	人々の善意や支えに応えたい	2－（6）										○	○
88～93	読み物資料「帰郷」（2年）	2－（6）						○				○	
94～95	支え合い共に生きる		○										

	ページ	内容項目	特別活動	総合的な学習の時間	教科	活用場面例
○自分を見つめ伸ばして	8					
・調和のある生活を送る	10	1－（1）	健康		理・保・家	長期休業日の前後
・目標を目指しやり抜く強い意志を	16	1－（2）	目標			学年始め、学期始め
・自分で考え実行し責任をもつ	22	1－（3）	責任			諸問題の解決
・真理・真実・理想を求め人生を切り拓く	32	1－（4）	進路			進路学習
・自分を見つめ個性を伸ばす	38	1－（5）	長所短所			家庭での話し合い
○人と支え合って	46					
・礼儀の意味を理解し適切な言動を	48	2－（1）		職場体験活動	国	職場体験活動前後
・温かい人間愛の精神と思いやりの心を	54	2－（2）		ボランティア活動	国・美	ボランティア活動前後
・励まし合い高め合える生涯の友を	60	2－（3）	友情		社・保	友達との関わりに関する学習
・異性を理解し尊重して	66	2－（4）	男女理解		家・社	男女理解を深める学習
・認め合い学び合う心を	72	2－（5）	様々な考え		国	討論活動
・人々の善意や支えに応えたい	82	2－（6）	感謝		国	家庭での話し合い

(2) 各教科等における「私たちの道徳」の活用方針の例

(1) 各教科の学習内容との関連で活用する

●国語科（四十八から五十三、六十から八十一、一〇六から一二三ページ）

伝え合う力を高め、言語感覚を豊かにすることは、相手の立場や考えを尊重し、感性や情操を豊かにし、望ましい人間関係をつくっていくことにつながる。また、国語を尊重する態度を育てることは、我が国の文化や伝統を大切にする心を育てることにつながる。

●社会科

（二十二から三十一、一三三から一六五、一七七から一九九、二二四から二九二ページ）

社会に対する関心を高め、民主的平和的な国家・社会の一員として責任のある行動がとれるための公民的資質を養うことは、人間としての生き方を追求する道徳教育と大きな関連をもつものである。

●数学科（三十二から三十七ページ）

事象を数理的に考察する能力を高め、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てることは、筋道を立てて考える能力を育て、道徳的判断力の育成にも資するものである。

●理科（十から十五、一〇二から一二三ページ）

科学的に調べる能力と態度の育成や生物学的な見方や考え方は、道徳的判断力の育成や心情の涵養と深く関わるものである。

●音楽科（一一四から一二三ページ）

音楽を愛好する心情や音楽に対する感性は、美しいものや崇高なものを尊重する心に通じており、このことにより、豊かな情操を養うことにつながる。

●美術科（一一四から一二三ページ）

美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活を創造していく意欲や態度を育てることや、美術の基礎的能力を伸ばし豊かな情操を養うことは、道徳性の基礎を養うことになる。

●保健体育科

（十から十五、六十六から八十一、一〇二から一二三、一六六から二七二ページ）

健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図ることや、生命の誕生や心身の成長を理解することは、明るく豊かな生活を営む態度を育成する。

●技術・家庭科

（十から十五、六十六から八十一、一〇二から一二三、一四八から一五九、一七七から一九三ページ）

(2) 道徳の時間に活用する	①導入段階の題材として……写真や文などを用いて、主題への関心を高める。 ②展開段階の中心的な資料として……読み物資料などを活用して道徳的価値について考え、話し合う。 ③展開段階の補助的な資料として……参考資料として情報を得、内容を深める。 ④生徒が体験を想起するときに……記入内容について発表し合い、体験を基に、価値の自覚を深める。 ⑤終末段階の題材として……学習したことを明確にし、考えをまとめる。 ⑥事前や事後に……学習につながる問い掛けや、発展的な問い掛けをする。
(3) 特別活動の各内容と関連させて活用する	（六十から九十五、一六〇から二七一、一九四から一九九ページ） 学級活動では、学級集団の一員としての自覚の下に、学級や学校の生活の充実と向上に関する活動を行う。生徒会活動では、学校生活の充実や改善向上を図るために、生徒による自発的、自治的な活動を展開する。また、学校行事においては全校や学年を単位として、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行う。
(4) 総合的な学習の時間の動機付けや自己の生き方を考える際などに活用する	（三十二から三十七、一四八から二七九、二〇六から二九九ページ） 総合的な学習の時間は、地域や学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題や生徒の興味・関心に基づく課題についての学習活動を行う。

4 「私たちの道徳」の活用を促す「道徳の時間の年間指導計画」

1 「私たちの道徳」を位置付けた道徳の時間の年間指導計画

「私たちの道徳」の活用に応たっては、道徳の時間の年間指導計画に「私たちの道徳」を位置付けるなどして、活用場面や活用方法などについて学校内で共通理解を図って活用することが望まれる。

「私たちの道徳」に掲載されている読み物資料、コラムや格言、書き込み欄などについては、道徳の時間の中心的な資料として活用したり、学習指導過程の一部で活用したりすることが考えられるが、内容等に応じて、発達の段階を考慮して計画的に活用していくようにしたい。

なお、「私たちの道徳」に掲載されている内容等は、三学年で割り振って活用するものや、三学年繰り返して活用するものなどを学年間で協議したり、共通理解を図ったりして計画的に活用することが重要である。

また、「私たちの道徳」をより効果的に活用していくために、活用状況等を振り返って、年間指導計画を見直し、工夫・改善を図っていくことが望まれる。



的指導や「私たちの道徳」の活用の仕方などについて共通理解を図って計画に位置付けていくことが大切である。

(2) 計画の弾力的な取扱いについて配慮する

三年間の見通しをもって「私たちの道徳」を位置付けること、また、計画的に扱うことを基本としながらも、学級の実態や学級担任の創意工夫によって弾力的な取扱いも考えられる。

学級の実態等に応じて計画を変更する場合には、学校内での共通理解を図ることが望まれる。

(3) 計画の工夫・改善を図る

年間指導計画が一層効果的に機能するためには、実践の振り返りに基づき、年間指導計画の評価と改善を行うことが重要である。年間指導計画には、「私たちの道徳」の活用状況や活用を通して気付いたことなどを書き込む欄を設けるなどして、年間指導計画の評価と工夫・改善を行っていくことが望まれる。

改善に当たっては、校内研修や学年会等で、「私たちの道徳」の活用の仕方について情報交換や研修等を行ったり、道徳教育推進教師や学年主任等が他の教師に指導・助言をしたりして「私たちの道徳」の効果的な活用についての研鑽を深め、よりよい改善を図っていくようにしたい。

(4) 計画に多様な指導方法を取り入れる

指導のねらい及び内容に基づいて、「私たちの道徳」を効果的に生かした指導、各教科等との関連を図った指導、道徳的实践に生かす指導、発達の段階に応じた指導

学習指導要領解説道徳編には、年間指導計画に明記しておくことが望まれる内容として、次の内容が示されている。

(1) 各学年の基本方針

(2) 各学年の年間にわたる指導の概要

- ア 指導の時期
- イ 主題名
- ウ ねらい
- エ 資料
- オ 主題構成の理由
- カ 展開の概要及び指導の方法
- キ 他の教育活動等における道徳教育との関連
- ク その他(保護者や地域の人々の参加・協力の計画等)

2 道徳の時間の年間指導計画に「私たちの道徳」を位置付ける際の配慮事項

(1) 共通理解の下、見通しをもって計画を立てる

「私たちの道徳」の読み物資料等を三学年のうちのどの学年で活用するかを三学年間で検討し、各学年の年間指導計画に位置付ける。また、三年間を見通した重点

などについて多様な指導方法を取り入れた計画になるように工夫する。

● 年間指導計画に「私たちの道徳」を位置付け、活用し、工夫・改善を図る取組〔例〕

- ① 校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心にして、主題の設定や配列、活用する資料等について三学年間で協議したり、共通理解を図ったりする。
- ② 年間指導計画に「私たちの道徳」を位置付ける際の配慮事項等に即して、各学年等で年間指導計画を作成する。
- ③ 作成した年間指導計画についての共通理解を図る。
- ④ 各学級では、年間指導計画に基づいた授業実践を行う。計画については、学級の実態や学級担任の創意工夫によって柔軟な扱いも大切にする。また、実践後は、気付いた点や変更した点などを計画に記しておく。
- ⑤ 学期ごとなどに年間指導計画の実施状況等について振り返り、共通理解を図ったり、今後の工夫・改善に生かしたりする。

月	重点内容	取り組む教科等、行事	「私たちの道徳」対応ページ	具体的な取組
6	情報モラル	技術分野、学級活動、総合的な学習の時間、道徳	P. 226～229	○コンピュータ、携帯電話などの適切な使い方について学習する。 ○情報モラルについて講演を開催する。
10	いじめの問題への対応	生徒会活動、学級活動、総合的な学習の時間、道徳	P. 230～237	○生徒会が中心になり、いじめ撲滅のためのスローガンを掲げ、全校生徒に呼び掛ける。 ○人間関係づくりの活動に学級で取り組む。
1	我が国の伝統文化	社会科、学級活動、総合的な学習の時間、道徳	P. 206～211	○地域巡り等を行って、地域のよさや地域の歴史について学習する。 ○社会科の時間に地域の歴史、文化について学ぶ。 ○道徳の時間に我が国の伝統と文化についての考えを深める。

(3) 重点内容に関する年間指導計画に「私たちの道徳」の活用について示した例

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

月	週	主題名	内容項目	資料名	ねらい	「私たちの道徳」の活用（読み物資料を除く）
1	1	国際理解	4－(10)	海と空―樫野の人々―	国際的視野に立って人類の幸福に貢献しようとする態度を養う。	P.217を終末で活用する。P.219を読む。
	2	生命尊重	3－(1)	キミばあちゃんの椿	生命の尊さを理解し、かけがえのない生命を精一杯生きようとする意欲を培う。	P.103、P.105を終末で活用する。
	3	きまりを守る	4－(1)	二通の手紙	誠実に実行し、その結果に責任をもとうとする態度を育てる。	P.134～137を終末で活用する。
2	1	責任ある行動	1－(3)	裏庭での出来事	自ら判断しなくてはならない状況のときに、自ら考え責任をもって自主的に行動しようとする態度を育てる。	P.22～23を導入で活用する。
	2	家族愛	4－(6)	一冊のノート	父母や祖父母に深い愛情をもって育てられたことを自覚し、家族に対する敬愛の念を深める。	P.182～183を終末で活用する。

(1) 主題等一覧に「私たちの道徳」の活用について示した例

3 「私たちの道徳」の活用について示した道徳の時間の年間指導計画の例

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

内容項目【主題名】 「私たちの道徳」資料名	ねらい	対象学年			他の教育活動等との関連
		1年	2年	3年	
1－(3) 【責任・誠実】 ネット将棋	自分で考え、実行し責任をもつ態度を育てる。		4月		情報モラル
2－(5) 【認め合う心】 言葉の向こうに	立場を尊重し、多様な見方や考え方があることを理解し、寛容な心をもとうとする態度を育てる。	5月			学級活動、生徒会活動、情報モラル、いじめの問題
2－(6) 【感謝】 帰郷	多くの人に支えられ、それに感謝する態度を育てる。		10月		社会科、家庭分野
3－(1) 【生命尊重】 キミばあちゃんの椿	生命の尊さを理解し、かけがえのない生命を精一杯生きようとする意欲を培う。			2月	理科、家庭分野、総合的な学習の時間
3－(3) 【人間の気高さ】 二人の弟子	自己の弱さ醜さと向き合い、それを克服することで誇りある生き方に近づく態度を育成する。			12月	
4－(1) 【規則の意義】 二通の手紙	誠実に実行し、その結果に責任をもとうとする態度を育てる。			1月	公民的分野、校外学習でのルール
4－(2) 【住みやすい社会】 鳩が飛び立つ日―石井筆子―	社会全体に目を向け、よりよい社会の実現に努めようとする意欲を育てる。		9月		公民的分野、家庭分野、生徒会活動、ボランティア活動、地域での職場体験活動
4－(6) 【家族愛】 一冊のノート	家族の有り難さに気付き、家族との関わりを通し、充実した家庭生活を築く意欲を育てる。		1月		家庭分野、学級活動、保護者会
4－(10) 【国際理解】 海と空―樫野の人々―	日本人としての自覚をもち、世界に貢献する態度を育てる。			9月	外国語科、総合的な学習の時間

(4) 「私たちの道徳」の読み物資料活用一覧の例

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

期日	〇〇月〇〇日(〇)				
主題名	自主自律 内容項目1－(3)				
ねらい	誠実に実行し、その結果に責任をもとうとする態度を養う。				
資料名	「ネット将棋」(私たちの道徳)				
展開の 大要	○一手一手に考え込んでいるふりをして、徹底的に時間稼ぎをしている僕はどのようなことを考えているのだろう。 ○どう考えて、僕はネット将棋でいきなりログアウトしたのだろう。 ◎敏和のツッコミに明子と智子は笑ったが、僕が笑えなかったのは、どのようなことを考えているからだろう。				
	P. 22～27「自分で考え実行し責任をもつ」を活用し、誠実に他者に接することの大切さについて考える。				
他の教育活動等との関連	学級活動(自己理解と生活設計)				
成果と課題	《授業についての生徒アンケート》	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
	今日の道徳授業はためになった。	%	%	%	%
	自分の思いや考えをもち、振り返ることができた。	%	%	%	%
	資料がよかった。	%	%	%	%

(2) 展開の主要の欄に「私たちの道徳」の活用について示した例

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

32

スタートページ	1主として自分自身に関すること	2主として他の人との関わりに関すること	3主として自然や崇高なものとの関わりに関すること	4主として集団や社会との関わりに関すること	特設ページ	まとめのページ
●この本のつかい方 ●あなたのことを教えてね	自分を見つめて 【内容項目数 4】	人とともに 【内容項目数 4】	いのちにふれて 【内容項目数 3】	みんなとともに 【内容項目数 5】		●道徳で学習したことを書きましよう
●この本の使い方 ●自分のことを書いてみよう	自分を高めて 【内容項目数 5】	人と関わって 【内容項目数 4】	命を感じて 【内容項目数 3】	みんなと関わって 【内容項目数 6】	■コンピュータやけい帯電話などをどのように使えばよいのでしょうか	
●この本の使い方 ●これが今の私	自分をみがいて 【内容項目数 6】	人とつながって 【内容項目数 5】	命をいとおしんで 【内容項目数 3】	みんなとつながって 【内容項目数 8】	■情報社会に生きる私たち	●自分を見つめ豊かに生きる ●道徳の時間に学習したこと
●この本の使い方 ●今の私	自分を見つめ伸ばして 【内容項目数 5】	人と支え合って 【内容項目数 6】	生命を輝かせて 【内容項目数 3】	社会に生きる一員として 【内容項目数 10】	■情報社会の光と影 ■あなたの身近にいじめはありますか	●道徳の時間に感じたこと、考えたこと ●私が出会った言葉、心に響いたあのひと言／家族からのメッセージ ●今の私

中学校

目次

この本の使い方	5
1 自分を見つめ伸ばして	8
1) 最初のうちは生活を送る	8
2) 目標を掲げよう	10
3) 目標を掲げよう	10
4) 目標を掲げよう	10
5) 目標を掲げよう	10
6) 目標を掲げよう	10
7) 目標を掲げよう	10
8) 目標を掲げよう	10
9) 目標を掲げよう	10
10) 目標を掲げよう	10
11) 目標を掲げよう	10
12) 目標を掲げよう	10
13) 目標を掲げよう	10
14) 目標を掲げよう	10
15) 目標を掲げよう	10
16) 目標を掲げよう	10
17) 目標を掲げよう	10
18) 目標を掲げよう	10
19) 目標を掲げよう	10
20) 目標を掲げよう	10
21) 目標を掲げよう	10
22) 目標を掲げよう	10
23) 目標を掲げよう	10
24) 目標を掲げよう	10
25) 目標を掲げよう	10
26) 目標を掲げよう	10
27) 目標を掲げよう	10
28) 目標を掲げよう	10
29) 目標を掲げよう	10
30) 目標を掲げよう	10
31) 目標を掲げよう	10
32) 目標を掲げよう	10
33) 目標を掲げよう	10
34) 目標を掲げよう	10
35) 目標を掲げよう	10
36) 目標を掲げよう	10
37) 目標を掲げよう	10
38) 目標を掲げよう	10
39) 目標を掲げよう	10
40) 目標を掲げよう	10
41) 目標を掲げよう	10
42) 目標を掲げよう	10
43) 目標を掲げよう	10
44) 目標を掲げよう	10
45) 目標を掲げよう	10
46) 目標を掲げよう	10
47) 目標を掲げよう	10
48) 目標を掲げよう	10
49) 目標を掲げよう	10
50) 目標を掲げよう	10
51) 目標を掲げよう	10
52) 目標を掲げよう	10
53) 目標を掲げよう	10
54) 目標を掲げよう	10
55) 目標を掲げよう	10
56) 目標を掲げよう	10
57) 目標を掲げよう	10
58) 目標を掲げよう	10
59) 目標を掲げよう	10
60) 目標を掲げよう	10

2 人と交わり合って

1) 礼儀の意義を理解し適切な行動を	54
2) 適切な人間関係の構築を目指し	54

3 生命を輝かせて

1) 生命を輝かせる	54
2) 生命を輝かせる	54
3) 生命を輝かせる	54
4) 生命を輝かせる	54
5) 生命を輝かせる	54
6) 生命を輝かせる	54
7) 生命を輝かせる	54
8) 生命を輝かせる	54
9) 生命を輝かせる	54
10) 生命を輝かせる	54
11) 生命を輝かせる	54
12) 生命を輝かせる	54
13) 生命を輝かせる	54
14) 生命を輝かせる	54
15) 生命を輝かせる	54
16) 生命を輝かせる	54
17) 生命を輝かせる	54
18) 生命を輝かせる	54
19) 生命を輝かせる	54
20) 生命を輝かせる	54
21) 生命を輝かせる	54
22) 生命を輝かせる	54
23) 生命を輝かせる	54
24) 生命を輝かせる	54
25) 生命を輝かせる	54
26) 生命を輝かせる	54
27) 生命を輝かせる	54
28) 生命を輝かせる	54
29) 生命を輝かせる	54
30) 生命を輝かせる	54
31) 生命を輝かせる	54
32) 生命を輝かせる	54
33) 生命を輝かせる	54
34) 生命を輝かせる	54
35) 生命を輝かせる	54
36) 生命を輝かせる	54
37) 生命を輝かせる	54
38) 生命を輝かせる	54
39) 生命を輝かせる	54
40) 生命を輝かせる	54
41) 生命を輝かせる	54
42) 生命を輝かせる	54
43) 生命を輝かせる	54
44) 生命を輝かせる	54
45) 生命を輝かせる	54
46) 生命を輝かせる	54
47) 生命を輝かせる	54
48) 生命を輝かせる	54
49) 生命を輝かせる	54
50) 生命を輝かせる	54
51) 生命を輝かせる	54
52) 生命を輝かせる	54
53) 生命を輝かせる	54
54) 生命を輝かせる	54
55) 生命を輝かせる	54
56) 生命を輝かせる	54
57) 生命を輝かせる	54
58) 生命を輝かせる	54
59) 生命を輝かせる	54
60) 生命を輝かせる	54

4 社会に生きる一人として

1) 社会に生きる一人として	132
2) 社会に生きる一人として	132
3) 社会に生きる一人として	132
4) 社会に生きる一人として	132
5) 社会に生きる一人として	132
6) 社会に生きる一人として	132
7) 社会に生きる一人として	132
8) 社会に生きる一人として	132
9) 社会に生きる一人として	132
10) 社会に生きる一人として	132
11) 社会に生きる一人として	132
12) 社会に生きる一人として	132
13) 社会に生きる一人として	132
14) 社会に生きる一人として	132
15)	



1 自分を見つめ伸ばして

(1) 調和のある生活を送る

P.10～15

1- (1)

望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。

1 この内容項目のページの特徴

心身の健康は、豊かな人生を送るための欠かせない要素である。本内容項目のそれぞれのページでは、節度と調和のある生活を送ることが心身の健康を維持していく上で重要であるということに気付くことができる。例えば、十二ページの小学六年生と、中学三年生の基本的生活習慣を比較したグラフでは、生活習慣の改善に向けての動機付けを図ることができる。

さらに、「人物探訪」では、「病気になるらない健康な人間をつくる」ことも医学の役目と考えた香川綾の考え方を通して、健康について考えることができる。

2 活用のポイント

本内容項目は、理科や保健体育科、技術・家庭科などの教科との関連が深く、様々な場面での活用が考えられる。

書き込み欄以外にも、例えば「健康ノート」などを作り、生活習慣を日常的にチェックするなどの工夫を促すこともできる。節度と調和のある生活の積み上げによって、心身の健康が増進され、健やかで豊かな人生が送れるということを考えとともに、自分自身の生活を振り返って、望ましい生活習慣を身に付けようとする態度を育みたい。

3 活用場面例

道徳の時間

十三ページの書き込み欄を活用して、自分自身の生活習慣をチェックした上で、授業に臨むことができる。「人物探訪」では、香川綾の「健康」に対する考えや取組から、調和のある生活の重要性について考えることができる。

事例

- ① 十二ページのグラフを見て、十三ページの生活習慣チェックを行って、自らの生活を振り返る。
- ② 十二ページ下段の書き込み欄に、大切にしている生活習慣や改善したい生活習慣を記入し、発表する。
- ③ 十四ページの「人物探訪」を読み、「食は生命なり」という言葉に込められた思いについて考える。
- ④ 「食事日記」をなぜ生涯書き続けることができたのかを話し合う。
- ⑤ 自分自身の生活を振り返り、今後に向けて調和のある生活を送るためのスローガンを決め、十三ページの書き込み欄に記入する。

P.13

保健体育科（保健分野）

十二・十三ページを活用して、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を継続することの大切さについて学ぶことができる。特に、適切な運動による発汗や気分転換は、心身のリフレッシュにも有効である。具体的な生活習慣の改善に結び付くように健康な生活についての理解を深めていきたい。

技術・家庭科（家庭分野）

十四ページの「人物探訪」を読み、生活の中で食事が果たす役割や健康によい食習慣、栄養素の種類と働き、中学生に必要な栄養の特徴について考えるきっかけとする。

家庭との連携

十一ページの「心と体の健康について学んだこと」を活用し、各教科、特別活動、道徳の時間などで学んだことを踏まえて、家の人と話し合いながら、書き込み欄に記入する。

◆この人のひと言

「早寝早起きは、人を健康で豊かで賢明にする。」

ベンジャミン・フランクリンは、アメリカ合衆国建国のために活躍した政治家である。また、風を用いた実験で雷が電気であることを証明した科学者としても知られている。理想とする生き方を実行するために自らまとめた十三の徳目を実践した。十五ページの言葉にある「豊か」は、原文では「wealthy」という単語で、この語には「富裕な」という意味も含まれる。原文を外国語科の時間に紹介するなどして、指導の関連を図ることもできる。

Early to bed and early to rise makes a man healthy, wealthy and wise.

◆人物探訪〈香川綾〉

「健康な人間をつくることも

医学の役目ではないか」

香川綾は夫の昇三とともに、昭和初期、胚芽米がビタミンBを多く含む脚気の予防に効果があることを発見した。病気になるらない健康な人間をつくることも医学の役目であるとして、食品の栄養、調理方法を詳細に研究、記録を続け、食品摂取の目安となる「四群点数法」を考案した。昭和十年に発刊した月刊『栄養と料理』は現在も発行されている。

昭和十二年に女子栄養学園を創設。学園が昭和二十年四月の空襲で焼失した後、終戦までは群馬県へ学校が疎開。この間の過労から、昇三は急逝する。

綾は、二人で目指した栄養学への熱い思いを引き継ぎ、戦後、埼玉県にキャンパスを建設し、日本の栄養学の普及発展に貢献した。

1 自分を見つめ伸ばして
(2) 目標を目指しやり抜く強い意志を

P.16~21

1-(2)

より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。

1 この内容項目のページの特徴

将来に向けて大きな夢をもつこと、そして、その夢の実現のために大切なことは何かについて、十六ページのアイランドのことわざや、十七ページのクラークの言葉などを通して考えることができるよう構成されている。

中学生の時期に、より高い目標に向かって努力しようとする強い意志を養うことは重要である。目標を達成したときの充足感や自己肯定感を高め、人生を切り拓いていく原動力になる。

しかし、実際には、目標の実現に向けた道のりは決して平坦ではなく、思い通りにいかない場面に直面することが多い。二十ページの松井秀喜氏の「メッセージ」や、二十一ページの「この人のひと言」などを通して、誰もが苦しい経験や挫折を乗り越え、目標に向かって懸命に努力してきたことを知ることができる。

2 活用のポイント

中学生の時期には、希望や勇気をもって生きる崇高な生き方に憧れをもつ一方で、自分の好むことには意欲的に取り組むが、障害や困難に直面すると簡単に諦めてしまうこともある。

指導に当たっては、書き込み欄などを活用して、具体的な生活の中で目標を達成した経験を振り返らせたり、

もう少しの努力で達成できる目標をもたせたりすることが大切である。
また、達成を繰り返すことで得られる成就感や満足感が、希望と勇気を生み、目標に向かう努力の動機につながることにしても考えることができるように留意したい。

3 活用場面例

道徳の時間

二十ページの松井秀喜氏の「メッセージ」や二十一ページの「この人のひと言」を活用して、着実にやり抜く強い意志をもつために大切なことについて考える。

事例

- ① 自分の夢や目標について話し合う。
- ② 二十ページの「メッセージ」を読む。
- ③ 「夢」と言えるような大きな目標を実現するためには何が必要かを考え、発表し合う。
- ④ 二十一ページの「この人のひと言」を読み、目標に向かって努力することの大切さについて考えを深める。



P.20~21

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(3) 学業と進路」の「オ 主体的な進路の選択と将来設計」の指導に当たって、本内容項目のページを活用して、自分の夢や希望について話し合い、発表を行う。

また、学年や学期の始めの目標設定の際に、本内容項目の文章や資料などを読んで、十七ページの中学生のうちに達成したい目標の欄や将来の目標の欄に記入する。なお、その際には、単に目標を立てるだけでなく、障害や困難が生じたときの手立ても併せて考えるようにする。

さらに、十九ページは、学期末や学年末、行事の事後指導の際に、目標の達成度を自己評価するときにも活用できる。

事例

- ① 十六・十七ページの言葉を参考にして十七ページの書き込み欄に記入する。
- ② 十八から二十ページを読んで、理想通りにいかない現実面に直面したときの対処法を考え、話し合う。
- ③ 十八・十九ページを読んで、目標を実現するために、これから取り組みたいことを考え、記入する。

◆この人のひと言

「希望とは、もともとあるものとも言えぬし、ないものとも言えない。それは地上の道のようなものである。もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」

魯迅は、中国の小説家、思想家。明治三十五年、日本に留学。この言葉は、中学生にもよく知られている小説「故郷」の一節である。常によりよい未来を見つめて前進しようとした魯迅の生き方が示された言葉である。

◆メッセージ（松井秀喜）

「僕は一歩ずつ階段を上がっていく

タイプだと思います。」

元プロ野球選手である松井秀喜氏のメッセージを読み、より高い目標を目指して段階的に堅実な努力をする姿勢から学ぶようにする。

「一進一退を繰り返しながら、ちよつとずつ進歩していくしかないと思っています。」という松井氏の言葉から、深い思慮と強い意志をもって挑むことの大切さについて考えるようにする。

松井氏が、身近な目標を定めてそれを実現するために当たって具体的な行動が目安になると指摘している点に注目し、

「まずは身近な目標を定める」ようにしているのはなぜか、より高い目標を達成するためには何が大切なのか、目標立案のヒントとしても考えていくようにしたい。



1 自分を見つめ伸ばして
(3) 自分で考え実行し責任をもつ

P.22～31

1-(3)

自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。

1 この内容項目のページの特徴

人間は様々な場面で考え、判断し、行動している。その際、深く考えて判断しているか、周囲の思惑を気にして他人の言動に左右されていないかを振り返り、自律とは何か、誠実に生きるとはどのようなことかなどについて、自分自身の日常生活と重ね合わせて考えていきたい内容である。

二十三ページでは、易きに流れがちな面もある中学生の時期の一面を問い掛け、自分を振り返って考え、二十四・二十五ページでは自律とは何か、さらには自律的に判断し、誠実に実行するとはどういうことかについて考えることができる構成となっている。「人物探訪」に掲載されている上杉鷹山の考え方や生き方からも自律的で誠実な生き方を考えることができる。

2 活用のポイント

中学生の時期は、自我意識が高まり自主的な行動を強く求める一方で、周囲の考えや思惑を気にして他者との迎合も目立つ不安定な時期でもある。

自律とは何か、責任ある行動とはどのようなことか、自問と内省を促す構成を生かして、自己の行動に責任をもつことの意味について考えたり、話し合いを深めたりするようにしたい。

3 活用場面例

道徳の時間

書き込み欄や各ページの文章を活用し、行動の背景にあるべき配慮について生徒に自覚を促し、自律的な生き方について内省する機会をつくることができる。

読み物資料「ネット将棋」や「人物探訪」、「この人の一言」は、道徳の時間の中心的な資料、または補助的な資料として活用することができる。

事例

- ① 二十四ページの書き込み欄に記入する。
- ② 読み物資料「ネット将棋」を読んで話し合う。
- ③ 二十四・二十五ページの文章を参考にしながら、自律的に生きることについて考え、発表し合う。
- ④ 「考え、判断し、実行し、責任をもつこと」という行動のために、どのような心掛けが必要なのか、また、なぜそれが必要なのかについて話し合う。



■ 社会科（歴史的分野）

近世、江戸時代中期の藩政改革の学習で二十六ページ

◆ 人物探訪 へ上杉鷹山

「なせば成る なさねば成らぬ 何事も 成らぬは人の なさぬなりけり」

成らぬは人の なさぬなりけり

（道徳の時間の学習展開の例）

この「人物探訪」を道徳の時間の中心的な資料として活用し、次のような問い掛けを行って話し合うこともできる。

- ① 鷹山は、藩主として、財政改善にどのような気持ちで取り組んだのか。
- ② 「なせば成る なさねば成らぬ 何事も 成らぬは人の なさぬなりけり」とは、どのような意味か。
- ③ 鷹山の再度の改革への取組が、なぜ成功したのか。

鷹山は米沢藩中興の祖である。絹の着用を制限し、質素儉約を奨励、東北地方を襲った天明の大飢饉を乗り越え、全国の諸藩が財政難に苦しむ中、農地開発、学問の奨励を進めた。公平無私の生き方を自ら示し、領地内のすべての民人の父として、愛情深く、常に誠実に実行し続けた。明治時代、内村鑑三の著作『代表的日本人』の中で取り上げられ、海外に紹介された。



P.26

◆ この人のひと言

「プリンシプルを持って生きていけば、

人生に迷うことは無い。」

（プリンシプル principle／主義、信条、原則）

白洲次郎は、戦後の占領下、終戦連絡中央事務局次長、経済安定本部次長、貿易庁長官を歴任し、連合軍総司令部（GHQ）との折衝で活躍した。また、随筆家である妻白洲正子の言葉も二一ページで取り上げている。夫妻が半世紀を過ごした茅葺き農家は、東京都町田市に「旧白洲邸 武相荘」として公開されている。

白洲次郎は、日本人というのは、物事を考える時に、物事の原則というものを考えない、自分でものを考える人が少ない、といったことも述べている。

1 資料の特性

将棋や囲碁は、対局者の一方が自分の負けを宣告することとで終局となるものであり、対局者双方の自主性・自律性が不可欠なゲームである。本資料は、その自主性・自律性を無視し、一方的に試合を中断させてしまう主人公の不誠実さが道徳的な論点となっている。

誠実とは、真心をもって他者に接する生き方である。誠実な態度でネット将棋を楽しみ、実力を伸ばす敏和とは対照的に、主人公の「僕」は、ネット将棋を楽しめず、気分や感情に支配されて不誠実に振る舞っている。そうした折、智子や明子と話している敏和の「自ら『負けました。』」「目には見えない相手とどう向き合うかで、自分が試されてる気がして」という言葉を聞き、誠実に自らの行動に責任をもつて行動するとはどういうことかを考え始めるといふ資料である。

2 指導上の留意点

中学生の時期は、自主的に考え、行動できるようにする一方で、自由の意味をはき違え、自分の行為が自分や他人にどのような結果をもたらすかを深く考えないで行動する面も見られる。

ネット社会における匿名性は、ややもすると無責任な態度や攻撃的な言動と結び付きやすい。インターネットを利用し

3 展開例

【ねらい】

誠実に行動し、その結果に責任をもとうとする態度を育てる。

事例①

「僕」の思いを通して、誠実に実行することの大切さを考える展開

【主な学習】

① 嫌そうな顔もせず、手早く駒を片付ける敏和を見て、「僕」はどのようなことを思っていたのか。

・ 僕が時間稼ぎをしていたことを、敏和は本当は気付いていたんだろう。なのに、何も言わないなんて、格好付けるなよ。

・ 敏和は、自分が勝っていたと思って、きつといい気分だろうな。いい気になるなよ。

② どう考えて、「僕」はネット将棋でいきなりログアウトしたのだろうか。

・ 相手が誰だか分からないし、また、自分が誰かも知られていないからまあいいか。

・ 負けそうになったらやめればいいだけだ。こんなので敏和が強くなったなんて信じられない。

③ 敏和のツッコミに明子と智子は笑ったが、「僕」が笑えなかったのは、どのようなことを考えていたからだ

ろうか。

・ ネットで相手が見えないからとひきょうなことをしていた。

・ 勝ち負けでなく、相手と誠実に対戦する姿勢が大切だ。
・ 相手が目の前にいるかどうかにかかわらず、いつでも誰に対しても相手の立場を考えることが大切なんだ。

事例②

登場人物の言動を通して、誠実の意味について考える

展開

【主な学習】

① 心から「負けました。」とすることができるのは、どのような思いからだろうか。

・ 勝負の結果を素直に受け止める気持ち。

・ 相手への敬意。
・ 自分自身、力の限り頑張ったことに達成感を感じている。

② 「心から」という言葉には、どのような意味があるのだろうか。

・ 悔しくても、負け惜しみではなく、負けを素直に認めることで、心から「負けました。」と言える。
・ 自分が正々堂々、誠実に勝負したからこそ、心から言える言葉。

③ 誠実とは、どのようなことか。誠実に行動するためにどのようなことが大切なのだろうか。

・ 結果を素直に受け止め、自分の行動に責任をもつこと。
・ 自分の言動がどういう結果につながるのかをよく考えることが大切。

一 の視点 重点ページ

自分を深く見つめて

1 このページの特徴

一 の視点に関わる重点化「自立心や自律性を育成すること」に関するページである。

坂村真民は、高等学校などで国語を教える傍ら、数多くの詩を作った。愛媛県伊予郡砥部町に記念館がある。

2 活用事例

■ 道徳の時間

自立心や自律性の内容を学習する際に、この詩を読んで、感じたことについて意見交流をし、自分を深く見つめさせるようにしたい。「一本の道を行く」とはどういうことか、自分にとっての「一本の道」とは何かなどについて話し合うことができる。



P.44～45

P.44～45